

食R養豚事業をスタート

環境テクシス 自社製の飼料100%活用で

食品残さの飼料化（愛知県豊川市、高橋慶社長、☎0533・87・5512）は、このほど、子豚20頭を購入してリサイクル飼料100%による養豚事業をスタートさせ

た。同社は、2017年2月に関連会社「リネファーム」を設立。豊川市内に豚舎を整備するなどして準備を進めてきた。

新事業費は約2000万円。もともと牛舎だった建屋を改修し、柵などの設備を入れた。約600平方メートルのうちの、25平方メートルの区画で20頭の豚肥育から開始し、今後は工事を進めて200頭まで増やす方針。年間8000頭の出荷を目指す。

特徴は、自社で製造した食品残さ由来の液体飼料のみを活用して肥育を行う点。高橋社長は、「国内の養豚生産が縮小する中、安価な食品リサイクル飼料を活用する養豚ビジネス

の可能性を探りたい」と意気込んでいます。同社は、産業廃棄物と一廃処分業の両許可を保有し、食品残さを飼料化、食品工場から出る汚泥を堆肥化している。現在の受け入れ量は、食品工場からの残さを中心に日量約10ト。主力となる飼料化では日量約60トの処理能力を持ち、性状に応じて液状飼料と乾燥飼料につくり分けている。（関連記事4面）

環境テクシス

養豚で飼料化の一步先へ

食り事業に確かな付加価値を

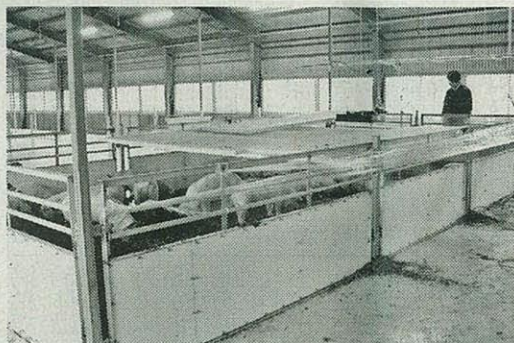
食品リサイクル事業等を展開する環境テクシス（愛知県豊川市、高橋慶社長、☎0533・87・5512）は、自社で製造した液体飼料を活用した養豚事業に新規参入し、より幅広い食品残さの価値向上にもつなげていく。実験農場として、新しい飼料や嗜好性の試験なども行う予定だ。（関連記事1面）

同社は、「創意工夫をもって資源循環により新たな価値を生み出す」を掲げ、液状飼料を組み合わせ、飼料化された食品残さを飼料として活用し、豚の飼育に活用する。高橋社長は、「当社で受け入れる食品残さのうち、クミやドライフルーなど、リサイクル原料としてハンドリングの悪いものを積極的に使い、残さの価値を高めることで、食品

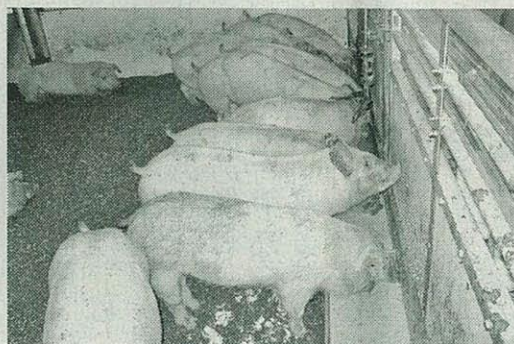
リサイクル率の向上に貢献したい」とする。また、新豚舎には浄化槽を備えず、排水をたノウハウを生かし、食料と養豚の両事業の新たな活路開拓を目指す。高橋社長は、「この養豚事業を成功させ、食



養豚のようす



豚舎内のようす



液状飼料を勢いよく飲む子豚

すを経営理念に掲げ、これまで飼料化されていなかった残さを見いだし、各排出元の状況に応じて最適なリサイクル方法を提案する事業で成長を続けてきた。今回、養豚事業になるまで育てて出荷するという。高橋社長は、「当社で受け入れる食品残さのうち、クミやドライフルーなど、リサイクル原料としてハンドリングの悪いものを積極的に使い、残さの価値を高めることで、食品

リサイクル率の向上に貢献したい」とする。また、新豚舎には浄化槽を備えず、排水をたノウハウを生かし、食料と養豚の両事業の新たな活路開拓を目指す。高橋社長は、「この養豚事業を成功させ、食

品リサイクル事業を手

掛ける会社として確かな付加価値を得たいと考えている。肉の販路拡大に向けたマーケティングにも力を入れ、将来的にはブランド化や飲食店経営につなげられれば」と目標を語っている。

2018年3月12日

循環経済新聞